

京都市はぐくみプラン（京都市子ども・若者総合計画）※の進捗状況等

※以下「計画」と表記

1 全体概要

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、利用控えによる実績の伸び悩みなど、一部の取組には進捗への悪影響が見られるものの、次のような状況を踏まえれば、計画は概ね順調に進捗しているものと考えられる。

- ・ 不妊に係る支援の充実、病児・病後児保育の充実及び医療的ケア児保育支援事業の実施、子育て家庭が気軽に相談できる環境づくりの推進など成果が上がっている。
- ・ また、児童虐待対策に係る取組の推進、支援を要する児童がいる世帯に対する関係機関との連携強化、ひきこもり支援の再構築などの成果についても、早期発見と横断的な支援の推進に繋がっている。
- ・ 計画全体の進捗状況を分かりやすくお知らせするための指標についても、保育所等及び学童クラブ事業における年度当初待機児童ゼロの継続（それぞれ9年、11年連続）など、概ね堅調に推移している。

2 施策・事務事業の実施状況

計画に掲げた210の施策について、全てが推進中となっている。

年度	施策数			
		完了	推進中	着手前
令和3	210	0	210	0

3 令和3年度における主な成果

(1) 不妊に係る支援の充実

令和3年7月より、特定不妊治療費助成制度を拡充した（先進医療として実施される不育症検査を助成対象に追加）。

特定不妊治療 実績 702,649 千円（助成件数 3,311 件）

(2) 保育所等待機児童ゼロの継続

令和4年度当初時点で、9年連続となる保育所等待機児童ゼロとともに、11年連続となる学童クラブ事業待機児童ゼロを達成

(3) 病児・病後児保育の充実

令和3年度に2箇所の新規開設を実施し、病児・病後児保育事業の運営体制の充実を図った。

(4) 医療的ケア児保育支援事業の実施

保育園において、受け入れ施設の拡充に努め、公民合わせて12施設29名（市営：2施設3名、民営：10施設26名）、私立幼稚園も含めると、14施設31名の受け入れを行った。

(5) 新しい教育内容に即した施設・設備充実等の推進

令和3年度を、児童生徒へ配備した1人1台端末の「本格活用元年」と位置づけ、新たに導入したデジタルドリル等の各種教育ソフトを効果的に活用しながら、児童生徒1人1人の興味・関心・意欲等を踏まえた指導・支援の充実を図るなど、ICTを活用した教育活動の更なる推進を図った。併せて、教職員向けに授業の映像や動画教材をより円滑に配信できる端末を配備した。

(6) 子育て家庭が気軽に相談できる環境づくりの推進

令和3年度に左京区、下京区の計2箇所ですどいの広場（京都市子育て支援活動いきいきセンター）を新たに実施し、身近な地域における居場所づくりの促進により、気軽に相談できる環境を整えるとともに、支援者が必要に応じて情報提供や助言を行った。

(7) 児童虐待対策に係る取組の推進

国が管理する要保護児童等に関する情報共有システムの運用を開始し、自治体間の転居や行方不明児童（CA情報）に係る情報について、システム上における自治体間の情報共有を実施し、迅速かつ的確な情報共有を図っている。

(8) 支援を要する児童がいる世帯に対する関係機関との連携強化

児童虐待に限らず支援を要する児童がいる世帯への対応に当たり、DV対応担当部署と子育て支援担当部署の連携強化を図るため、京都市DV相談支援センターにおいて面接相談があったケースのうち、子どもがいる世帯全件について、京都市DV相談支援センターから子どもはぐくみ室に情報提供し、当該情報を子どもはぐくみ室における子育て支援等に活用する仕組みを構築した。

(9) ひきこもり支援ネットワークの再構築

令和3年7月にひきこもり支援ネットワーク構築の場として、行政区レベルの各区役所・支所ひきこもり支援調整会議、全市レベルの寄り添い支援係長会議に加え、行政だけでなく、関係機関も含めたひきこもり支援ネットワーク構築の場として「ひきこもり支援ミーティング」を実施した。

(10) 寄付などを通じた民間活力による子ども・若者の未来への支援

おせち等のふるさと納税の返礼品を充実し、「京都市子ども若者はぐくみウェブサイト」・「京都はぐくみアプリ」・広報紙「あつまれ！京(みやこ)わくわくのトビラ」で「京都市はぐくみ未来応援事業」の情報発信を行った。

これまで子ども若者はぐくみ事業基金に積み立てた寄付金を、高等職業訓練促進給付金事業に活用した。

4 計画の進捗状況を示す指標

項目	計画最終年度 までの目標値	現況値 (令和2年度)	令和3年度 実績値
①妊娠 11 週以下での妊娠の届出率 【安心して妊娠・出産できる環境】	100%	94.6%	95.9%
②保育所等における年度当初待機児童数 【保育を利用しやすいと実感できる環境】	ゼロの 継続	ゼロ	ゼロ※ ¹
③学童クラブ事業における年度当初待機児童数 【放課後における健やかな育ち】	ゼロの 継続	ゼロ	ゼロ※ ¹
④放課後まなび教室希望児童の登録 【安心して自主的な学びなどができる環境】	100%の 維持	100%	100%※ ²
⑤青少年が参画している附属機関等の割合 【若者の社会参加】	50%	53.1%	53.6%
⑥京都是ぐくみアプリのダウンロード数 【必要な支援情報の到達】	53,000件 (運用開始以 降の合計数)	30,930件	34,022件
⑦児童生徒が在学中に茶道（小学校）、華道 （中学校）を体験した市立小・中学校の数 【京都ならではの文化力をいかした学び】	小：全校 中：全校	小：32/161校 中：16/ 72校	小：67/161校 中：36/ 72校

※1 令和4年度当初

※2 新型コロナウイルス感染症の影響による未実施校を除く。

5 今後に向けた主な課題

(1) 子育て・教育環境の充実及び情報発信

全ての子どもたちが健やかにはぐくむため、計画に掲げた施策・事業について、引き続き、着実に推進する必要がある。

また、若者・子育て世代が、「京都で子育てしたい」と感じていただけるよう、京都の子育て・教育環境の魅力を情報発信する必要がある。

(2) 特に支援を要する子どもとその家庭への支援

子ども・子育て家庭が抱える課題が、深刻化、複合化しており、特に支援を要する子どもとその家庭への支援を強化する必要がある。